

2018年度 矢向あけぼの保育園 自己評価

記入日2019年 3月 28 日			
	自己評価の観点	評価項目	振り返り内容
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮	①子どもの最善の利益の考慮を意識して保育にあたっているか？性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮しているか？国や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮しているか？ ②自分の園の保育方針・保育目標を他者に伝えられるか？保育方針・保育目標に沿った保育を意図的に行っているか？	①子どもを人格を持った人間として接し、性差での先入観など固定観念を持たず、一人ひとりの個性を尊重し保育を行っている。幼児クラスでは保護者の協力も得て、国や文化の違いを知ることができる活動も取り入れた。 ②保育方針・保育目標を理解し、意識して保育を行っているが、全ての職員が懇談会などで保護者に説明できるように職員間で共通認識にする努力が更に必要である。
	① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標		
II 子どもの発達援助	1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	①子どもの健康管理は適切か？感染症対応のマニュアルがあり、理解し実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自らが、主体的に学び・生活できる環境設定(物的環境・人的環境)を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？	①視診や触診などで個々の健康状態を把握し、送迎時には家庭と細かく連絡をとり、体調の変化に早く気付けるようにしてきた。感染症流行時には衛生マニュアルをその都度確認、発生時には状況について早めに掲示するなど感染拡大防止に努めた。その結果感染症の大きな流行はなかった。看護師と連携し、手洗い・うがい、咳、歯磨きなど、適時子どもたちへの衛生指導を実施してもらった。災害への安全対策については、マニュアルを理解し、月一回の避難訓練(不審者対応、引き取り訓練含む)を行ってきた。 ②当園が最も大切にしている子ども自身が選択し、遊びたいという「主体性」が引き出せる保育環境づくりに力を入れてきた。月齢や年齢に応じて、玩具の種類や数をこまめに見直し、入れ替えたりした。③保育士との信頼関係(0、1、2歳児は担当制)を基本に、好きな遊びを見つけて遊びこむ、保育士を安心基地として、友だちとの関係を広げ、深めていくことを意識してきた。
	① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人との関わりを育む環境		
	2 生活と発達の連続性	①子ども親・発達観をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し、保育を実践しているか？ ②子ども一人ひとりに応じて保育目標を設定しているか？子ども一人ひとりの発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、一人ひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？	①クラス担任同士での話し合い、乳幼児会議、職員会議での話し合いを大切に。会議で確認をし、共通認識のもとに保育実践を進めてきたが、職員により多少の違いも見えてきた。さらに、子ども親・保育観について学びながら深いところでの認識を一致させていきたい。 ②一人ひとりの目標を立て、個々にあった声かけ、対応をしている。発達状況、成長の過程を経過記録に記録している。 ③一人ひとりの発達・特性を理解し、また家庭的背景なども考慮し他児と比較したりはせずに保育をしてきた。④生活においては、一日の日課の流れ、日々のくり返しを大切に。連続性を意識して計画を立てて保育している。
	① 子ども親・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性		
3 養護と教育の一体的展開	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？ 「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？	①0歳児は、養護が中心になるが子ども自身が意識出来るよう言葉を添えて丁寧に育児を行っている。 ②1、2歳児は、身の回りのことを手伝ってもらいながら丁寧にやり方を伝え自分で出来るよう援助してきた。 ③3歳児については、進級当初には幼児クラスに慣れることを第一に、一人ひとりの状況に合わせて、保育士や年長児に手伝ってもらいながら身の回りのことが自分で出来るようにしてきた。幼児クラスでは食事のマナーが身に付くように声かけだけでなく、よい姿勢で食べることの大切さなどモデル絵を示したりしながら伝えてきた。年齢別の担当を明確にし、活動、課業に取り組んできた。	
① 主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開			
4 環境を通して行う保育	①子どもが快適に過ごせる環境(清潔・採光・換気・照明など)への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた環境設定を意識的に行っているか？身近な自然を通して感性を育み、さまざまな気づきにつながるようになっているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心をもてるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び(数・図形・言葉・文字など)につながるよう工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構成や再構成をしているか？	季節に合わせて快適に過ごせるように環境の調整を行った。 ①清潔に関しては、毎日の清掃、遊具の消毒(主に乳児)を行っている。室内に泥、砂を持ち込まないようにするために、外遊び後の手洗い、足洗いを行うようにした。天気の良い日は全クラス外遊びを行い、季節の自然に触れるようにしてきた。遊びの中で文学や数のあそびも取り入れてきた。数に関しては、5歳児中心に週1回程度課業を行い、関心、理解を深めた。どじょう、かたむむり、てんとう虫、青虫からちょうちんへの飼育、落ち葉、木の実などでの制作、雨の日散歩など季節に合わせた遊びを取り入れる中で子どもたちの探求心、好奇心を引き出す経験を増やした。図鑑や写真を通して環境認識の「季節」や「七夕」「餅つき」「節分」「ひなまつり」など日本の伝統文化や行事や遊びを体験した。②成長や季節に合わせて、遊具や絵本の入れ替え、保育室のコーナーを変化させた。	
① 保育の環境 ・ 人的環境 ・ 物的環境 ・ 空間 ・ 自然や社会現象等 ② 環境の構成・再構成			
III 保護者に対する支援	1 家庭との緊密な連携	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？②日常の保育を保護者に理解し援助してもらえようように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常しやすいように努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？ 2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的に行っているか？②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？	1、①乳児は連絡帳や登降園時に保護者とコミュニケーションを大切に。幼児はクラスノートやホワイトボードで保育の様子を保護者に伝えてきた。職員については、もっと積極的に保護者とコミュニケーションをとるとさらによかった。②写真を使い、各クラスの子どもたちや誕生会の様子を伝える中で子どもの成長を共有してきた。③相談があれば、その場で対応。その場で答えられない場合は「後日」ということで他職員や園長などと相談し返答ができるようにした。保育観・参加で園生活を見てもらったり個人面談で話を聞いて一緒に考えたり支援した。個人面談について、いつでも可能なことを保護者に十分周知できていなかったところがあった。 2、①園庭開放(夏は水遊び)、育児講座、交流保育への参加、一時保育の受け入れを行ってきた。②外部講師を呼んでの研修、幼保小連携行事、地域子育て支援では子育て拠点や地区センターの参加者への呼びかけをしてきた。連携園への情報提供、行事への参加の呼びかけを行った。③園だより、掲示などで職員や保護者への情報提供を行った。
	① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任 ③ 子育てに関する相談・援助 ④ 保護者への個別支援 2 地域における子育て支援 ① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携		
IV 保育を支える組織的基盤	1 健康及び安全の実施体制	1、①園の保育理念・方針・保育計画などを正しく説明できるか？指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育計画に基づいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応ができるようにマニュアルがあり、理解し実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために、家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？ 2、①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？③保育園として自己評価をし、その結果を公表しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？ 3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか？②個人情報の取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し、迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保護者から情報・意見を集めたり説明をしているか？	1、①保育説明会や懇談会などを通して、保育理念・方針・保育計画などを保護者に向けわかりやすく説明をしてきた。保育計画に基づいて指導計画を作成してきたが、さらに新指針を意識した計画を作成する必要がある。②子どもの保健や衛生については、園の看護師に相談したり、マニュアルに沿って対応。マニュアルはすぐに見られるように、身近に置くようにしてきた。③外遊び、リズムあそび、体育など家庭の理解を得ながら子どもたちの体力づくりを進めてきた。 2、①どの職員も子どもの最善の利益を第一に考えて保育にあたっている。会議では、各自が黙っていることはなく積極的に発言していた。②年度初めに各自目標を定めて、年度末に自己評価をし振り返りを行った。③年度末に、保育園として自己評価をまとめ、園に掲示し、ホームページでも公表した。 ④土・日の研修も含め、積極的に研修に参加し、自己研鑽を積んできた。 3、①②法順守、個人情報の取扱には十分注意してきた。保護者からの要望や苦情については、「子どもにとっての最善の利益」を考えうえて迅速に対応してきた。個人情報の取り扱いについて法人として規則を策定した。必要に応じて保護者の同意を得たり、職員としては遵守していくようにする。③施設長として、事あるごとに園の理念や方針について話してきたが、保育実践に具体化することに努力をしてきた。意思決定にあたっては、職員の事情、意見や要望を考慮し、説明し、話し合いを重ねて決定する努力をしてきた。
	① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携 2 職員の資質向上 ① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修 3 運営・管理、社会的責任 ① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任		

2017年度 矢向あけぼの保育園 自己評価

記入日 2018年 3月 29日			
	自己評価の観点	評価項目	振り返り内容
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮	①子どもの最善の利益の考慮を意識して保育にあっているか？性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮しているか？国や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮しているか？ ②自分の園の保育方針・保育目標を他者に伝えられるか？保育方針・保育目標に沿った保育を意識的に行っているか？	①子どもを人格を持った人間として接し、固定観念を持たず、一人ひとりの個性を尊重し保育を行っている。保護者の協力も得て、国や文化の違いを知ることができる活動も取り入れた。 ②保育方針・保育目標を理解し、意識して保育を行っている。また、懇談会などで保護者にも何を大切にしていきたいのか説明もしている。
	① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標		
II 子どもの発達援助	1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	①子どもの健康管理は適切か？感染症対応のマニュアルがあり、理解し実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自らが、主体的に学び・生活できる環境設定(物的環境・人的環境)を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？	①視診や触診などで個々の健康状態を把握し、送迎時には家庭と細かく連絡をとり、体調の変化に早く気付けるようになってきた。感染症流行時には衛生マニュアルをその都度確認、実践し感染防止に努めた。看護師との連携し、相談したり、適時子どもたちへの衛生指導を実施してもらった。安全対策については、マニュアルを理解し、月一回の避難訓練を行ってきた。 ②当園が最も大切にしている子ども自身が選択し、遊びたいという「主体性」が引き出せる保育環境づくりに力を入れてきた。月齢や年齢に応じて、玩具の種類や数をこまめに見直し、入れ替えたりした。③保育士との信頼関係(乳児は担当制)を基本に、好きな遊びを見つけて遊びこむ。保育士との信頼関係を元に友だちとの関係を広げ、深めていくことを意識してきた。
	① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人との関わりを育む環境		
	2 生活と発達の連続性	①子ども観・発達観をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し、保育を実践しているか？ ②子ども一人ひとりに応じて保育目標を設定しているか？子ども一人ひとりの発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、一人ひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？	①クラス担任同士での話し合い、乳幼児会議、職員会議での話し合いを大切にされた。会議で確認をし、共通認識のもとに保育実践を進めてきた。 ②一人ひとりの目標を立て、個々にあった声かけ、対応をしている。発達状況、成長の過程を経過記録に記録をしている。 ③一人ひとりの発達・特性を理解し、また家庭的背景なども考慮し他児と比較したりはせずに保育をしてきた。④生活においては、一日の日課の流れ、日々のくり返しを大切にされた。連
	① 子ども観・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性		
3 養護と教育の一体的展開	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？	園内研修で「養護と教育」について学び、意識して保育へ取り入れるようにした。 ①0歳児は、養護が中心になるが子ども自身が意識出来るよう言葉を添えて丁寧に育児をする。 ②身の回りのことは、手伝ってもらいながら丁寧にやり方を伝え自分で出来るよう援助してきた。 ③3歳児の排泄など進め方に課題も残ったが、担任同士話し合いを重ねながら、一人ひとりの状況に合わせて身の回りのことが自分で出来るよう、丁寧に対応してきた。食事でのマナーに関しては、2歳からの引継ぎや、幼児クラス間での共通性が欠けていた。	
① 主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開			
4 環境を通して行う保育	①子どもが快適に過ごせる環境(清潔・採光・換気・照明など)への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた環境設定を意識的に行っているか？身近な自然を通して感性を育み、さまざまな気づきにつながるようにしているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心がもてるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び(数・図形・言葉・文字など)につながるように工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構	季節に合わせて快適に過ごせるように環境の調整を行った。 ①清潔に関しては、毎日の清掃、遊具の消毒(主に乳児)を行っている。室内に泥、砂を持ち込まないようにするために、外遊び後の手洗い、足洗いを行うようにした。天気の良い日は全クラス戸外遊びを行い、季節の自然に触れるようにしてきた。遊びの中で文学や数のあそびも取り入れられてきた。数に関しては、5歳児中心に週1回程度課業を行い、関心、理解を深めた。青虫からちゅうちょへの飼育、雨、雪、落ち葉、木の実などでの制作など季節に合わせた遊びを取り入れる中で子どもたちの探求心、好奇心を引き出す経験を増やした。写真を通して環境認識の「季節」や日本の伝統文化や行事や遊びを体験した。 ②成長に合わせて、遊具や絵本の入れ替え、保育室のコーナーを変化させた。	
① 保育の環境 ・ 人的環境 ・ 物的環境 ・ 空間 ・ 自然や社会現象等 ② 環境の構成・再構成			
III 保護者に対する支援	1 家庭との緊密な連携	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？②日常の保育を保護者に理解し援助してもらえるように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常しやすいように努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？ 2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的に行っているか？②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？	1、①乳児は連絡帳や登降園時に保護者とコミュニケーションを大切に行ってきた。幼児はクラスノートやホワイトボードで保育の様子を保護者に伝えてきた。②写真を使い、各クラスの子どもたちや誕生会の様子を伝える中で子どもの成長を共有してきた。③相談があれば、その場で対応。その場で答えられない場合は「後日」ということで他職員や園長などと相談し返答ができるようにした。④保育参観・参加で園生活を見てもらったり個人面談で話を聞いて一緒に考えたり支援した。 2、①園庭開放(夏は水遊び)、育児講座、交流保育への参加、一時保育の受け入れを行ってきた。②外部講師を読んでの研修、幼保小連携行事、地域子育て支援では子育て拠点や地区センターとの連携ができた。
	① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任 ③ 子育てに関する相談・援助 ④ 保護者への個別支援		
IV 保育を支える組織的基盤	2 地域における子育て支援		
	① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携		
IV 保育を支える組織的基盤	1 健康及び安全の実施体制	1、①園の保育理念・方針・保育課程などを正しく説明できるか？指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育課程に基づいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応ができるようにマニュアルがあり、理解し実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために、家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？ 2、 ①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？ 3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか？ ②個人情報の取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し、迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保	1、①保育説明会や懇談会などを通して、保育理念・方針・保育課程などを保護者に向けわかりやすく説明をしてきた。②子どもの保健や衛生については、園の看護師に相談したり、マニュアルに沿って対応。マニュアルはすぐに見られるように、身近に置くようになってきた。③戸外遊び、リズムあそび、体育など家庭の理解を得ながら子どもたちの体力づくりを進めてきた。 2、①どの職員も子どもの最善の利益を第一に考えて保育にあたっている。会議では、白熱した議論まではいかなかったが、各自が黙っていることはなく積極的に発言していた。②、③土・日の研修も含め、積極的に研修に参加し、自己研鑽を積んできた。 3、 ①②法順守、個人情報の取扱には十分注意をしてきた。保護者からの要望や苦情については、「子どもにとっての最善の利益」を考えたうえで迅速に対応してきた。③施設長として、事あるごとに園の理念や方針について語ってきたため、理念・方針に沿った保育実践が行われてきた。意思決定にあたっては、職員の事情、意見や要望を考慮し、説明もし、話し合いを重ねて決定をしている。
	① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携		
IV 保育を支える組織的基盤	2 職員の資質向上		
	① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修		
IV 保育を支える組織的基盤	3 運営・管理、社会的責任		
	① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任		

2016年度 矢向あけぼの保育園 自己評価

(クラス・園)

記入日	2017年 3月 27日	歳児	組を担当	氏名
	自己評価の観点	評価項目		振り返り内容
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮	①子どもの最善の利益の考慮を意識して保育にあたっているか？性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮しているか？国や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮しているか？ ②自分の園の保育方針・保育目標を他者に伝えられるか？保育方針・保育目標に沿った保育を意識的に行っているか？		①子ども一人ひとりの個性を尊重し、一人ひとりの主体性を重んじながら保育を行っている。その事が最善の利益とも考え園全体が最も大切にしている1つである。②保育方針と目標は常に頭に入れ、それをもとに年間、月案等の計画を作成している。(細かい所で頭に入っていないという反省もある)
	① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標			
II 子どもの発達援助	1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	①子どもの健康管理は適切か？感染症対応のマニュアルがあり、理解し実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自らが、主体的に学び・生活できる環境設定(物的環境・人的環境)を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？		①家庭との連携を重視し、マニュアルに沿って、衛生管理を行っている看護師の指導の下に、感染症の発症が認められた時はただちに保護者へ、園全体と情報を共有している。安全管理、対策等各クラスにあるマニュアルに目を通すようにしている。②当園が最も大切にしている「主体性」が一人ひとりの子どもに生かされる保育環境を作り実践ををしている。年齢によって違うが生活もあそびも見守りを大切にしている。
	① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人との関わりを育む環境			
	2 生活と発達の連続性	①子ども観・発達観をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し、保育を実践しているか？ ②子ども一人ひとりに応じて保育目標を設定しているか？子ども一人ひとりの発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、一人ひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？		①まず担任同士で話し合い、次に乳幼児会議、全体会議等で話し合うことを大切にしている。その為職員への共通理解進んだと思う。②0～2歳児までは個人目標を月カリキュラムの中でたて、保育実践を行い日誌や経過記録の中に発達状況を記録している。③家庭との連携の中で保育を行い、今の発達の段階を考慮し保育を行っている。④保育計画は常に子どもの姿を意識して作成している。
	① 子ども観・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性			
3 養護と教育の一体的展開	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？		①当園では2歳児まで担当制で養護を行い、大人との信頼関係を強く育むことに力を入れている。その中で生活に必要なことを全て言語化し、この年齢に必要な教育も合わせて行っていると意識している。幼児では自立が進み、生活は主体的に行われてゆくが、一人ひとりの発達に合わせての関わりを行うようにして、成長が喜びとなり自信につながるようになってきた。	
① 主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ② 主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③ 主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開				
4 環境を通して行う保育	①子どもが快適に過ごせる環境(清潔・採光・換気・照明など)への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた環境設定を意識的に行っているか？身近な自然を通して感性を育み、さまざまな気づきにつながるようにしているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心がもてるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び(数・図形・言葉・文字など)につながるように工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構成		①季節に応じての室内環境を考慮し、清潔に関しては毎日の清掃、遊具の消毒を行っている。自然光を大切に、季節に応じて、子ども達が健康に過ごしやすいよう配慮している。天気の良い日はほぼ全クラス戸外遊びを行い、季節の自然にふれるよう考慮している。子ども達が興味関心を持った生き物の飼育を行い、生命の不思議さに多くふれるようにした。幼児クラスでは、集団遊びや遊び感覚での数遊び、聞く力をつけるお話し会、課業としての体育、絵画中心の美術活動も子ども達の発達の可能性を豊かにするため、多面的	
① 保育の環境 ・ 人的環境 ・ 物的環境 ・ 空間 ・ 自然や社会現象等 ② 環境の構成・再構成				
III 保護者に対する支援	1 家庭との緊密な連携	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？②日常の保育を保護者に理解し援助してもらえるように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常しやすく努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？ 2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的に行っているか？②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？		1、①乳児は連絡帳や朝晩のコミュニケーションを大切に行ってきた。②幼児も、保育の様子が伝わるよう写真を使って子どもの成長を共有できたと感じている。③必要に応じての個別面談も行い小さな相談等は朝夕のコミュニケーションで行っている。 2、①園庭開放や講習会、行事の中での交流、マイ保育園制度での給食交流等を積極的に行った。
	① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任 ③ 子育てに関する相談・援助 ④ 保護者への個別支援			
2 地域における子育て支援	① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携			
IV 保育を支える組織的基盤	1 健康及び安全の実施体制	1、①園の保育理念・方針・保育課程などを正しく説明できるか？指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育課程に基づいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応ができるようにマニュアルがあり、理解し実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために、家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？ 2、 ①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？ 3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか？ ②個人情報の取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し、迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保		1、①4月に行う保育説明会や懇談会の時に保護者に向けてわかりやすく説明している。子どもの医療や保健に関しては、ベテランの看護師に相談することが多くより専門的な事は園医に相談できる。②マニュアルは各クラスに置いてあり、必要に応じて確認している。③園の方針、目標にまず健康があげられているため、家庭の理解を得ながら、子どもたちの体作りを行っている。 2、①常に子ども中心に考えての発言を行っている②日誌、月案、年に3回の園長面接等で自己評価を行い、年度末に園全体の自己評価を行っている。④自己評価をする中で自分の不足部分を意識して、著書や園外の研修などにて学習している。 3、①職員同士や保護者に対して信頼をそこなうような言動はあってはならないと考え一人ひとり実行している。②個人情報の取り扱いや守秘義務についても、十分理解し徹底している。保護者からの要望や苦情は「子どもにとって」を考えたうえで迅速に対応している。③施設長は職員に十分周知して業務にあたっている。重要な意思決定は話し合いを持った上、説明等を行っている。
	① 健康の保持及び増進 ② 安全・衛生管理 ③ 家庭や保健・医療機関等との連携			
	2 職員の資質向上	① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修		
3 運営・管理、社会的責任	① 法令等の遵守 ② 個人情報の取扱と苦情解決の責任			